



JICA
Innovation
Quest

JICA Innovation Quest

共創から生まれる新しい国際協力



ジャイクエのはじまり

2018年、JICA初の組織内新規事業コンペで採用された、3年目職員発の新規事業

JICAだけではSDGsの多様な課題に対応できないのではないか？
組織のルールや前例・経験を「できない理由」にしていないか？
凝り固まった視点で見えていない課題があるのではないか？



異分野、異業種の多様な人々が一緒になり、途上国の課題や解決策を考え、
途上国の真のニーズに応える、新しい視点/知見/技術を用いた
新しい国際協力を創り出す場が必要

オープンイノベーション・プラットフォームとしての「ジャイクエ」

ジャイクエが目指すもの

- 視野を広げてタックルする課題を捉えなおす
- 多様な人のスキル、経験、情熱を取り入れる

共創



JICA
Innovation
Quest

革新

- 現地への理解と分析をベースに、前例のないチャレンジや発想を取り入れる

国際協力に熱い想いのある
多様な人のネットワーク

これまでにない切り口や
視点のアイデア

現地にとって、さらにインパクトのある国際協力の実現



第3回JICA Innovation Quest 概要 ～社会起業応援インキュベーションプログラム～

第3回JICA Innovation Quest 概要

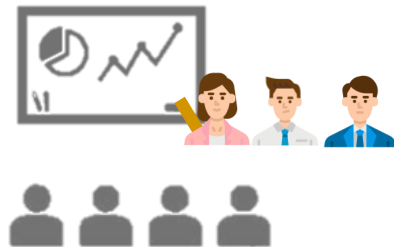
途上国に山積する課題を解決する新しいアイデアを育て、
事業化を促進する**社会起業応援インキュベーションプログラム**です。



多様な参加者による
アイデアの共創



JICAのネットワーク
を生かした、現地で
の実証実験



成果をオンライン
で配信、事業化に
向けた出会いの場

第3回ジャイクエの提供コンテンツ

ジャイクエに参加したあなたは以下のような経験をすることが可能です。



アイデア・オーナーとサポーターとのマッチング・チームビルディング



実証実験を計画・実施するためのインプット(JICA内外有識者):
①事業化までのプロセス、②途上国での新規事業の事例・教訓、③実証実験のプロセス(プロトタイプ作成、実施後の効果測定)



アドバイザーによるメンタリング(JICA外部有識者)



実証実験のための費用:各チーム最大100万円(予定)。
参加者の現地渡航費等を除く直接経費を想定。

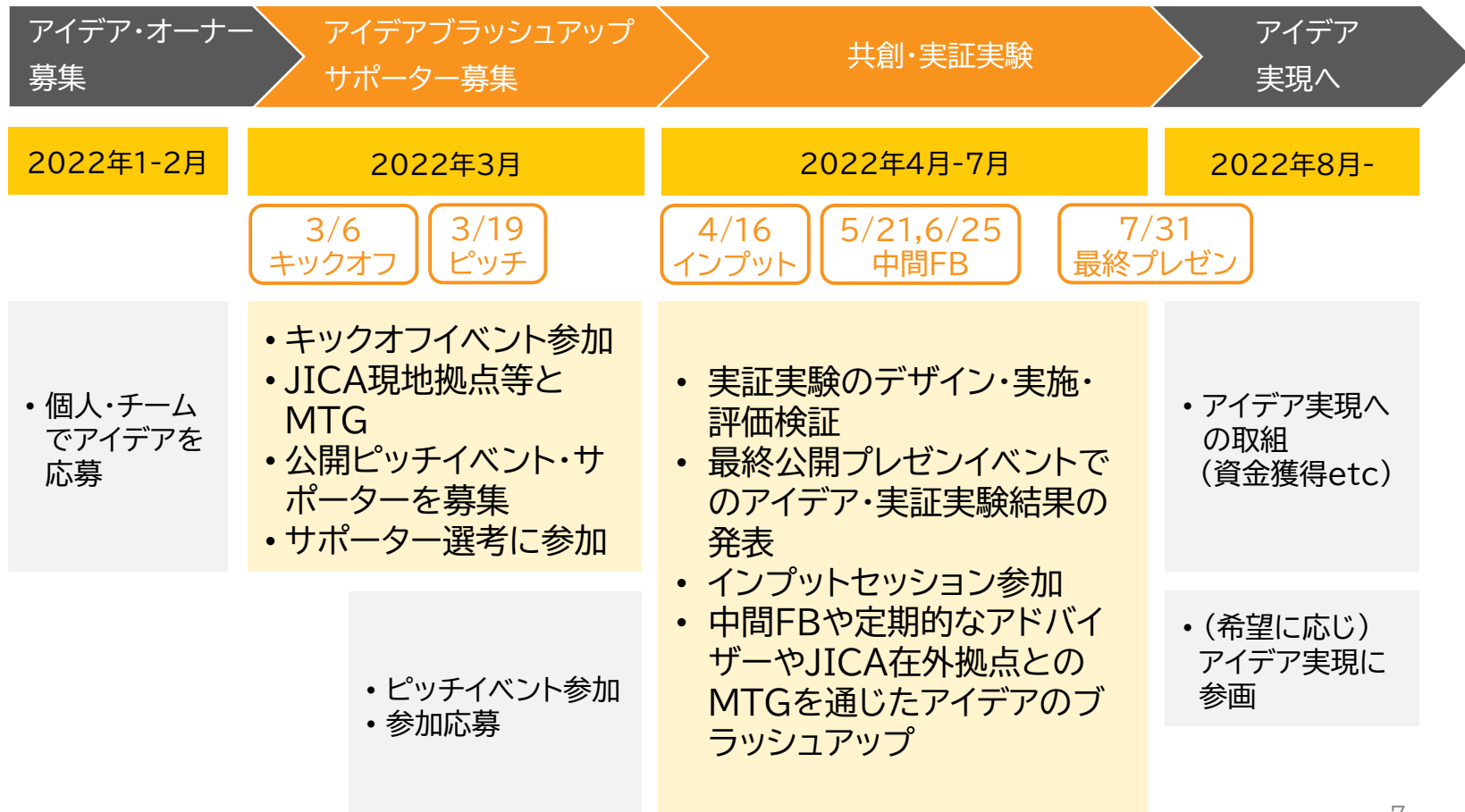


現地在外拠点による実証実験支援:現地調達を含む、実証実験支援。



ファイナル・プレゼンテーション:一般へのアイデア公開機会。

ジャイクエ社会起業応援プログラム実施の流れ



第3回プログラム参加の形



アイデア・オーナーとして ひとりでも、チームでも

自分の持っているアイデアをサポートと共に育て、現地に届ける。
実証実験を実施、その後の事業化も推進。



サポーターとして みんなで育てる。

自分の強みを生かして、アイデアを現地に届ける。
アイデア・オーナーと共に実証実験を実施。

① アイデア・オーナーとして参加

社会課題を解決するアイデアの種を持つあなたは、アイデア・オーナーとして参加してみたいかでしょうか。

2022年1月～2月



求めるアイデア・オーナー

- 所属は不問。学生でも社会人でも参加可能。
- 1人または3人までのチームで応募可能。
- アイデア・課題解決に本気で取り組みたい方！

求めるアイデアの種

- どのような分野の社会課題でも可能。
- 対象国・地域の課題分析を踏まえた新しいアイデア・仮説
- 期間、必要な分析・知見やスキル、活動資金の調達方法など実証実験やその後に向けた検討がある程度進んでいること



② サポーターを募集(フェーズ1)

アイデアをブラッシュアップしながら、共創をする仲間を募集します。

2022年3月



- アイデア・オーナーによる公開ピッチイベントを開催し、一緒に実証実験に取り組むサポーターを募集。
- プロジェクトマネジメント、広報、マーケティング、デザイン、動画・アプリ作成などの強みを持つ人を、アイデアにつき3~5人のサポーターを募集します。
- アイデア・オーナーはサポーターの選考に参加します。

③ 共創・実証実験(フェーズ2)

アイデア・オーナーとサポーターが中心となって、インプットやアドバイザーからの力を借りながら、3.5か月間で実証実験を実施、アイデアをブラッシュアップします

2022年4月～7月



- ① 認定NPO法人very50による、途上国における社会起業やアイデアを実証化するためのノウハウ等に係る講義を実施！
- ② アドバイザー(今後公開予定！)から各チームへ、実証実験やアイデア事業化に関するアドバイザリーをプログラム期間中に提供！
- ③ アイデア実装のため、実証実験の経費を各チーム最大100万円サポート！

※認定NPO法人very50

- ・ 2008年設立、『「自立した優しい挑戦者」を増やして、世界をもっとオモシロク。』を理念に掲げ活動している認定NPO法人。
- ・ 東南アジア・南アジアを中心に世界各地の社会起業家の支援やビジネスアクセラレーションを行うとともに、国内外のSDG現場へ高校生から社会人までを派遣する人材育成等も行なっている。



④ ファイナル・プレゼンテーション

アイデアを審査員やオーディエンスを前に発表し、事業化への一步を踏み出します

2022年7月



- YouTubeライブでアイデアを発表・審査、
- 世界にアイデアが広くはばたく場
- アイデアに関心や関連のある企業・投資家などを広く集め、事業化へのステップへ



関係者の役割

参加者チーム(3~4チーム)
1チームあたり
・アイデア・オーナー1~3名
・サポーター2~4名

チーム①(構成例)

アイデア・
オーナー

アイデア・
オーナー

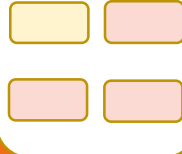
サポーター
(プロマネ)

サポーター
(スキル)

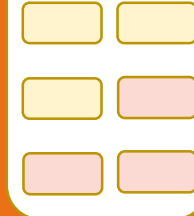
サポーター
(スキル)

サポーター
(スキル)

チーム②



チーム③



チーム④



実証実験支援
現地の関係者紹介

在外拠点
対象国のJICA拠点。
実証実験をサポート

アドバイス
人脈提供

アドバイザー
JICA関係者、起業経験の
ある有識者等。チームにア
ドバイス・壁打ち

コンテンツ提供
実証実験経費支援

JIQ運営事務局
実証実験実施のための
インプットや資金支援

実証実験の実施方法

アイデアの妥当性・有効性、実現可能性(持続可能性)などの検証を目的に実施。

(1)期間:2022年4月から7月の間、1~2か月程度

(2)調達・費用:

- 各チーム最大100万円
- 実証実験の計画・実施・結果検証のために必要な経費のみ(プロトタイプ作成のための消耗品、機材のレンタル費、業務委託費、謝金、等)
- 原則、事前に運営事務局へ必要費用や調達の妥当性(市場価格と比較して著しく高額でない、等)を説明の上でJICAが調達。

(3)具体的な進め方(例)

①仮説の明確化、②介入の具体化、③指標の設定、④ベースラインデータを収集、⑤介入を実行、⑥エンドラインデータを収集、⑦データ分析・検証、次のステップの計画作成

(4)その他留意事項:

- 原則、遠隔で実施することとし、参加者の現地渡航は不可。
- 対象ターゲット等から物品・サービスの対価として代金を請求し、利益を得ることは不可

JICA Innovation Quest 運営メンバー一同 皆様のご参加をお待ちしております！



大角麻亜紗

#教育
#バングラデシュ
#地域開発



矢野 泰雅

#ラオス
#教育
#インクルーシブ



山江海邦

#保健
#ケニア
#野球



橋本真希

#アフリカ・中東
#ジェンダー
#難民・移民



井村皓一

#マイケルジャクソン
#日系社会
#地方創生



福田啓介

#アフリカ
#海上保安・港湾
#相互補完の国際協力



松本滉司

#インド
#ガバナンス
#テニス



松本颯太

#民間セクター
#パートナーシップ
#双方向の国際協力



大村萌菜美

#社会保障
#アフリカ
#仏語圏

ご参考

ジャイクエの軌跡

JICA Innovation Quest
ファイナル・プレゼンテーション

JICA
Innovation
Quest

これまでの JICA Innovation Quest 概要



これまでのジャイクエプログラム

多様な参加者とJICA職員的情熱溢れる「共創」の場の実現「革新」的な思考の実践

参加者チーム(6名)

一般参加者(社会人)(4名)
新しい視点や専門知識・技術



JICA参加者(2名)
現場の視点、国や課題の知見

JICA・連携パートナーによる
3か月のアイデア創出支援

JICA事務所・関係部

開発途上国からの留学生

専門家/現地の関係団体等



コベルニク

2019テーマ

SDGsゴール2

(飢餓・食・栄養・持続可能な農業等)

対象5か国(5チーム):ブータン、タジキスタン、スリランカ、マダガスカル、ペルー

2020テーマ

誰一人取り残さない社会の実現

(社会包摂: Social Inclusion)

対象7か国(7チーム):カンボジア、モンゴル、ネパール、ザンビア、マラウイ、エジプト、パレスチナ

ジャイクエ2019の主なアイデア

前例に捉われない革新的な発想の実践→既存スキームに捉われず実現方法を模索

最優秀賞&オーディエンス賞：
タジキスタン・チーム



「おもてなし」の文化を守りながら、
食事量、油の摂取量を減らす『映え皿』
→今年度現地調査実施予定



SHIBUYA QWS賞:ブータン・チーム



幸福度の低い農家の収入向上のため、
斜面で農業を効率化するためのアプリ
『斜メリコmend』
→今年度現地調査実施予定



ジャイクエ2020の主なアイデア

オンラインでの現地の人々との共創の実現→団体設立も視野にアイデアの実践へ挑戦

最優秀賞:ザンビア・チーム

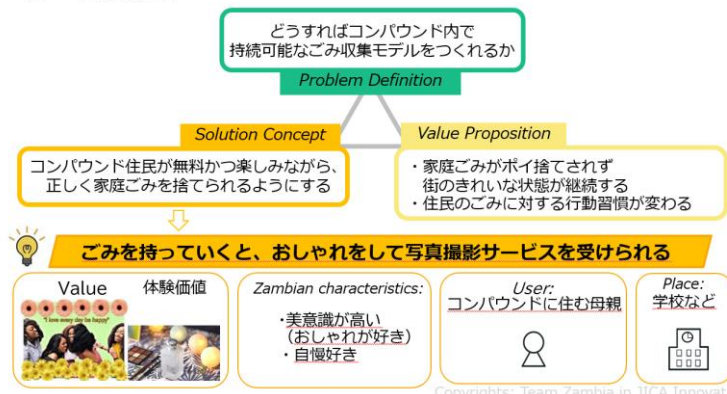


美意識を利用してコンパウンドの
ゴミ問題を解決する

『Beautiful Zambia』

→今年度現地調査実施予定

サービス概要



オーディエンス賞:カンボジア・チーム



地方の子供たちが遊びながら多様な
職業を学び将来の可能性を広げる

『職業トランプ』

→外部資金獲得を模索中

職業トランプ



<記載内容>

- ・ 職業の名称
- ・ 職業イメージ図
- ・ 職業の説明
- ・ 必要な科目、能力値
- ・ QRコード

※職業は毎年更新予定

定 職業図鑑



Source: <https://kyujobank.com/iryo/kangoshi.html>

ジャイクエ2年間の成果・実績

参加者の多様な業種・業界

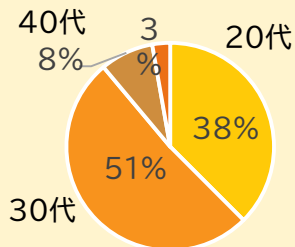


想いを持つ多様な人が集まる場

参加者の年齢層

選考を経て累計72名参加

20代~30代が約90%



プログラム終了後の活動

- ・累計**12カ国**を対象にアイデア創出
- ・過去2回の最優秀チームは現地調査準備中
- ・ほぼ全チームが活動を継続し、**事業化を検討中**
(以下最優秀チーム以外の事例)



ネパールチーム

- ・出稼ぎに日本へ来るネパール人への支援アイデアを創出
- ・プロトタイプとして、現地の日本語学校と協力し、ネパール人向けの教育プログラムを実践中



マラウイチーム

- ・現地の布を使った教育アイデアを創出
- ・今年度中にクラウドファンディングで資金集めを行い、事業化を検討

現地の課題解決に資するアイデア